
俺と天使？【第2章・完結】（8）

榛名屋 忍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と天使？【第2章・完結】（8）

【Nコード】

N0389R

【作者名】

榛名屋 忍

【あらすじ】

「俺と天使？」の第二章。文学部一年生の男子部員・菅原悠里には大きな秘密があった。それは心は男、身体は女であること。しかし、そんな彼が好きになった相手はなんと渡会夏樹だった。外見だけ見るとボーイズラブ、だけどホントは男女の恋愛。二人は結ばれるのか？

夏樹が悠里の元を訪れた翌日、悠里は登校することに決めた。いつもの時間、沙也佳の家のチャイムを鳴らす。

「おはよう、沙也佳」

「おはよう、ゆーり。今日は学校に行くのね」

「うん。今日は部活もあるからね」

「二人とも」

そこにやってきたのは良人だ。

「あ、来栖先輩よ」

「おはようございます。どうしたんですか？」

「渡会くんに頼まれたんだ。菅原くんを教室に送り届けてほしいって」

「わざわざありがとうございます」

三人は並んで登校した。

廊下で沙也佳と別れ、悠里は教室に入った。良人はそれを廊下で見守った。

「なんだ。今日は来たのかよ、女男」

「本当に女か確かめてやろうぜ」

早々に男子生徒に取り囲まれ、悠里は動けなくなってしまった。

「触るなっ」

制服を脱がそうとする手が伸びた瞬間、良人は動いていた。

「僕は友だちとの約束は絶対に破らない主義なんだよね」

ニヤリと笑って悠里に手を出そうとした生徒を投げ飛ばす。続けて野次馬の男子たちに蹴りを入れる。

「教室でこんなこと：ヤバいぜ：」

男子たちは教室の隅へと逃げていく。そこに担任教師が現れた。制服の乱れた悠里を見て、教師は何が起きたのか理解した。

「みんな席について」

男子たちはふてくされた表情で席についた。どさくさに紛れて良人は廊下に飛び出した。そこで夏樹と目が合った。

「派手にやっみたいだね」

「渡会くん！」

「来栖が喧嘩っ早いとは知らなかったな。まあいいや、教室に行こう」

二人が去ったのを横目で確認しながら教師は話を切り出した。

「先生からちゃんと説明しないといけないわね。菅原くんからも聞いたと思うけど、彼は性同一性障害に悩んでいるの。身体は女の子で心は男の子だから、普段は男子として生活しているのよ」

静まり返った教室に教師の言葉だけが響き渡る。

「突然のことで混乱しているのはわかるけれど、みんな以上に菅原くんは混乱してきたと思うわ。学校としては菅原くんの気持ちに配慮して男子生徒として扱ってきたんだけど、こういうことが起きるのであれば、ちょっと考え直さないといけないわね」

「ごめんなさい！」

悠里は立ち上がって頭を下げた。

「僕がこんな病気じゃなかったら、みんなに嫌な思いさせなかったのに……僕が黙って我慢してれば済むことなのに……」

「菅原くんは謝ることないよ」

一人の女子が言うのと、女子たちは「そうよ」「男子がひどいことするから」などと騒ぎ出した。それに呼応して男子たちも「俺たちが悪いって言うのかよ」と声をあげる。

「静かに。菅原くんも座って」

教師は凜とした声で指示を出した。

「先生は菅原くんを病気だとは思っていません。それは個性です。担任としてみんなの個性を認めるなら、菅原くんがスカートを履かなくてもいいし、男子として体育の授業を受けてもいいということ

です。みんなはどう思いますか？」

「一度女だって言われたら、どうしても意識しちゃうから、体育は一緒にできないと思います」

悠里いびりに加担しなかった真面目な男子生徒がハキハキと応えた。

「スカートは別に履かなくてよくない？むしろ私も履きたくないし」

「だよね。スカート面倒くさいもん」

「けど、体育は…」

女子たちもそこで口を閉ざした。

「うちらは菅原くんのこと男だと思ってたからさあ」

「みんなの気持ちはわかったわ。複雑な問題だからすぐには決められないけれど、しばらく体育の授業は個別で受けてもらおうようにするわね」

「あ、あの、よろしくお願いします」

もう教室には良人の悪口をいうものはいなかった。

夏樹と良人が教室に戻ると、慎吾が仁王立ちをして待ち構えていた。

「来栖」

「森村くん…」

慎吾のあまりの迫力に、良人はたじろいだ。

「下級生のクラスで乱闘騒ぎとはね。次の級長会議で叩かれるぞ、うちのクラス」

「ごめん。でも…」

「でもない。暴力で解決できると思ったのか？」

「来栖だけを責めないでくれ」

そこで夏樹が間に入った。慎吾が言葉を飲み込む。

「渡会…」

「俺は教室の外にいたのに、来栖を止めなかった。俺にも責任はあ

る」

その言葉を聞いて、慎吾はため息をついた。

「ああっ。もう、わかったよ。俺がちゃんと謝っとくよ。あのクラスの会長は林だったな。短気なんだよな、あいつ」

「ごめんなさいっ」

来栖はもう一度頭を下げた。

(後書き)

中途半端かもしれませんが、とりあえずここで第二章はおしまいです。続けて、第三章に移ります。

『アルファポリス』『コミックルーム』にて、小説ランキングに参加しています。お気に召しましたら、バナーのクリックをよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0389r/>

俺と天使？【第2章・完結】（8）

2011年10月7日23時16分発行